

TOKYO DEAF FESTIVAL 東京ろう映画祭



全上映ラインナップ・イベント&来日ゲスト決定！ 園子温監督『愛のむきだし』を初の日本語字幕付き上映！

報道各位、関係者各位

平素よりお世話になっております。2017年4月7日（金）～9日（日）に第1回を開催する東京ろう映画祭の全上映ラインナップ、ならびに関連イベントが決定しましたのでお知らせいたします。

***ろう者の世界を知る多彩な作品が集結！**

作品選定はろう者のディレクターが担当。ろう者の生活やそれを取り巻く社会問題、ろう文化やろう者のアイデンティティなど、様々な角度からろう者を扱った作品を、新旧織り交ぜてお届けします。ラインナップは主に日本とヨーロッパから、社会性・芸術性の高い映画を4つの部門に分けて紹介。世界各地の映画祭を沸かせた話題作から懐かしの名作まで、日本初上映となる作品を含め、劇場での鑑賞が貴重な12作品が揃いました。

***特別上映企画として園子温監督『愛のむきだし』を日本語字幕付きで初上映！**

東京ろう映画祭では、ろう者により多様な映画作品を知ってもらうべく、これまで強い要望がありながら字幕上映が実現していなかった作品を選出し、日本語字幕制作・上映に継続的に取り組んでいきます。今回、その第一弾として、園子温監督『愛のむきだし』を日本語字幕付きで初めて上映します。

***来日ゲスト多数！連日のトークが充実！**

本映画祭開催にあたり、上映作品の監督・出演者の来日が決定しました。『音のない世界で』の出演が日本でも印象に強いフランスのろう俳優、レベント・ベシュカルデシュ。日本のろう写真家・井上孝治の生涯を追ったドキュメンタリー作家、ブリジット・ルメーヌ監督。昨年、フランスのろう者の実情を捉えたドキュメンタリー映画『新・音のない世界で』がモントリオール世界映画祭ほか複数の映画祭で脚光を浴びたレティシア・カートン監督。以上3名が本映画祭のために来日し、舞台挨拶やトーク、シンポジウム、ワークショップに登壇します。また、手話弁士として登壇する米内山明宏氏をはじめ、多数の監督・出演者が連日来場予定です。映画祭での国際交流・文化交流を通じてろう文化のさらなる発展の場としてお楽しみいただきます。

***映画だけじゃない！ろう文化に触れる関連イベントが目白押し！**

映画祭の開催に合わせ、多彩なろう文化に触れることができる写真展、個展、シンポジウムやワークショップ、また交流を深めるレセプションパーティーを開催します。

<上映作品一覧（全12作品）>

■TDF FOCUS（5作品）

話題の最新作から懐かしの名作まで、ろう者を扱った注目の映画を日本とヨーロッパからセレクトして上映します！日本未配給の作品を含め、劇場での鑑賞機会は貴重な5本です。

『あの夏、いちばん静かな海。』

監督：北野武（1991年/日本/101分/日本語・日本語手話・日本語字幕）

ろうの男女が繊りなす恋愛模様を綴った、北野武監督第3作。ろう者でゴミ収集車の助手をしている茂はある日、粗大ゴミに出されたサーフボードを拾う。恋人の貴子に見守られながらサーフィンを始めた茂はやがて大会に出場することになるが…。映画評論家の故・淀川長治氏から「これはサイレントのラブストーリーだ」と絶賛を受けた北野映画初期の傑作。主人公2人の台詞を排することで既存の恋愛映画とは一線を画した。出演に真木蔵人、大島弘子、寺島進など。



©1991 オフィス北野

『音のない世界で』 Le Pays Des Sourds

監督：ニコラ・フィリベール

（1992年/フランス/99分/フランス語・フランス手話・日本語字幕）

パリのろう学校では、ろう児たちが手を口元にあてて息が吹きかかる感覚で声を出す練習をしている。また別のところでは、ろうの男性が手話で聴者たちに自らの体験を伝えている…。フランスのドキュメンタリー映画の第一人者であるニコラ・フィリベール監督が、異文化という視点から音の聞こえない世界を捉え、そこで生活するろう者たちの率直な姿を映したドキュメンタリー。92年ポポリ映画祭、ベルフォール映画祭、ボンベイ国際映画祭でグランプリを受賞するなど各国で高い評価を受けた。



©1992 Les Films d'Ici, La Sept Cinéma, C.E.C. Rhône-Alpes

『新・音のない世界で』 アジア初上映

J'avancerai vers toi avec les yeux d'un sourd

監督：レティシア・カートン

（2016年/フランス/105分/フランス語・フランス手話・日本語字幕）

レティシア・カートン監督のろう友人、ヴァンサンが突然亡くなった。失意の中からレティシアはフランスのろう者と手話の世界へカメラを向ける。社会から抑圧され続けてきた彼らの怒り、家族への愛や葛藤、ろう教育の現実…。10年の歳月をかけ、ろう者たちの様々な心情に迫ったドキュメンタリー。モントリオール世界映画祭など複数の映画祭に出品。



©2016 Kaléo Films

『あなたたちのために』 Per amor vostro 日本未配給作品

監督：ジュゼッペ・M・ガウディーノ

（2015年/イタリア＝フランス/110分/イタリア語（一部イタリア手話）・日本語字幕・英語字幕）

子供の頃から家族に尽くしてきたアンナは、旦那の暴力に耐えながら二人の娘とろう者の息子、さらには両親の面倒まで見なくてはならない。自分には何の価値もないと鬱々と暮らしてきた彼女だが、テレビ局の仕事を得たことをきっかけに変化が訪れる。ナポリを舞台に、問題を抱えた一人の女性の内面世界をモノクロとカラーの実験的な映像で映し出した人生ドラマ。主演のヴァレリア・ゴリーノは本作にてヴェネチア国際映画祭で2度目の女優賞を受賞。



©2015 Rai Com

『LISTEN リッスン』

監督：牧原依里・雫境

（2016年/日本/58分/音声なし（サイレント）・日本語手話・日本語字幕）

ろう者が自身の手指や顔の表情、全身を使い視覚的に「音楽」空間を創り出していく有り様を映し出した完全無音のアート・ドキュメンタリー。手話言語を通じて日常的に熟達した彼らの表現は「音楽とは？」という問いのさらに奥深く、人の内面から滲み出る内なる“何か”へと迫っていく。ろう者のアイデンティティという地盤から新たな「音楽」の可能性を見出した話題作。毎日映画コンクールドキュメンタリー部門ノミネート。



©2016 DeafbirdProduction

■特集：戦後を生きたくる者たち（4作品）

1960～70年代に青春を駆け抜けた、2人のろう芸術の先駆者にフォーカスした特集です。独学で8ミリフィルムの長編作品を多数制作し、日本のろう映画を開拓した映画監督、深川勝三。ろう写真家として国内外で高い評価を得てきた井上孝治。彼らが残した痕跡は今もなお色褪せず、現代を生きる私たちの心に直接語りかけてきます。合わせて開催する「井上孝治写真展」と共にご堪能ください。

『私を見てください、私もあなたを見ます』

Regardez-moi, je vous regarde

監督：ブリジット・ルメーヌ（1996年/フランス/19分/フランス手話・日本語字幕）
ろう俳優のレベント・ベシュカルデシュが井上孝治の生涯と功績をフランス手話で語る、写真と手話によって構成された短編。監督のブリジット・ルメーヌは1993年にアルル国際写真フェスティバルで井上の写真作品に感銘を受け、井上や自身の祖父をはじめとしたろう芸術家たちへの想いを込めて制作した。監督の優れた美意識から捉える映像と手話との融合により、ろう者をもつ「視覚の知性」を演出している。



©FotoFilmEcrit1996

『井上孝治、表象を越えた写真家』劇場未公開作品

Koji Inoue, photographe au delà des signes

監督：ブリジット・ルメーヌ

（1999年/フランス/64分/日本語・日本手話・日本語字幕）

一度もプロを名乗ることなく生涯を閉じたろう者の写真家・井上孝治。人々の生活を生き生きと捉えた彼の作品はアルル国際写真フェスティバルをはじめ、世界的にきわめて高い評価を得ている。ブリジット・ルメーヌ監督は井上の写真に「無声映画のような美しさ」を見出し、彼の生涯を追うべく来日する。井上が過ごした福岡の風景や写真をはじめ、生前を知る家族や友人、作家の黒岩比佐子（井上の評伝を執筆）らのインタビューによって構成された、井上孝治を追想する記録ドキュメンタリー。



©FotoFilmEcrit1999

『三浦浩翁半生記』

監督：深川勝三

（1964年/日本/110分/音声なし（サイレント）・日本手話・日本語字幕）

ろうあ教育に身を捧げ、多くのろう者の希望の灯となった実在のろう教師・三浦浩氏の半生を綴る深川勝三監督第2作。8ミリフィルムで撮影された約7時間に及ぶ大作を再編集したデジタル復元版。明治33年、幼少時の日射病が元でろうになった主人公は医者で紹介で東京盲啞学校へ入学する。フィルムを通して明治時代の書生たちの悠々とした暮らしや痛快な交友関係、当時の寮生活の様子が克明に描かれる。



©睦聾啞映画保存会

『たき火』

監督：深川勝三

（1972年/日本/108分/音声なし（サイレント）・日本手話・日本語字幕）

北海道の片田舎から上京した耳の聞こえない青年は、靴磨きの女性ろう者に恋をするも、自分の仕事探しに四苦八苦ししながら生活している。様々な人たちとの出会いの中、青年は東京で成長していく…。国民に手話が普及してきた昭和中期の青春・人情物語。昭和39年～47年の8年間という長い歳月をかけて制作された。深川勝三監督の病状の悪化により未公開のまま約40年間お蔵入りとなっていたが、5年前にろう者たちの手によって復刻された不朽の名作。



©睦聾啞映画保存会

■注目短編作品（2作品）

イギリスで制作活動をしているルイス・ニースリング監督、テッド・エヴァンズ監督による短編2編をピックアップしました。ろうをテーマに多様な視点と表現を探求し、世界各国のろう映画祭で話題を集める彼らのユニークな作品を上映します。

『ジ・エンド』 The End **日本初上映**

監督：テッド・エヴァンズ

(2011年/イギリス/24分/英語・イギリス手話・日本語字幕)

イタリア国際ろう映画祭など世界中の様々なろう映画祭でグランプリを受賞し、拍手喝采を得たモキュメンタリー。ろうの人々を聴者に変える「革命的治療」が誕生した中、監督はろう児のグループの成長を追い始める。彼らは治療やろうを取り巻く環境について各々の思いを語るが、大人に成長するにつれて…。人工内耳の開発で世界的にろう者が減っている近年の状況にろう者の視点から警鐘を鳴らす。



©BSLBT but produced by Ted Evans at Neath Films.

『スティル・ヒア』 Still Here **日本初上映**

監督：ルイス・ニースリング

(2012年/イギリス/26分/英語・イギリス手話・日本語字幕)

30年以上にわたって共にショーを行ってきたろう者のグループが織りなすブラック・コメディ。ある日、グループのまとめ役であったルビーが倒れたことをきっかけに、彼らの人生はドタバタと混乱する。監督のルイス・ニースリングは本作で、友情・老い・変化について考え、皮肉とユーモアたっぷりにろうコミュニティを賛えている。ハル・ドレイバー、ジーン・クレア、ジョン・スミスなど、イギリスで長年活躍してきたろう俳優やコメディアンが多数出演。



©BSLBT but produced by Mutt & Jeff Pictures.

■特別上映企画『愛のむきだし』

インディペンデントで制作される日本映画には優れた作品が数多くありますが、残念ながらまだまだ日本語字幕がないものがほとんどです。東京ろう映画祭では、ろう者の皆さんにより多様な映画作品を知ってもらおうべく、これまで強い要望がありながら字幕上映が実現していなかった作品を選出し、日本語字幕制作・上映に継続的に取り組んでいきます。今回、その第一弾として、園子温監督『愛のむきだし』を上映します。

『愛のむきだし』 **初日本語字幕付き上映**

監督：園子温 (2009年/日本/237分/日本語・日本語字幕)

『ヒミズ』『冷たい熱帯魚』『新宿スワン』等で監督をつとめた鬼才・園子温監督が描く、実話をベースにした究極の純愛物語。敬虔（けいけん）なクリスチャンの家庭に育ったユウ（西島隆弘）は、神父の父（渡部篤郎）に毎日懺悔を強要されている。いつしかユウは自ら“罪”を作るために女性を狙う盗撮魔となっていた。そんなある日、運命の女ヨーコ（満島ひかり）と出会い、生まれて初めて恋に落ちるが…。本作を機にブレイクした満島ひかり、安藤サクラらの熱演に注目！国内外で熱狂的な支持を得た4時間に及ぶ怪作に、今回初めて日本語字幕を付けて上映します。（R-15指定）



©「愛のむきだし」フィルムパートナーズ

<関連イベント>

■井上孝治写真展

ドキュメンタリー映画『井上孝治、表象を超えた写真家』の上映にともない、ろう写真家・井上孝治の写真展を2回にわたり開催します。井上孝治の写真は、1989年、博多の老舗百貨店の広告キャンペーンを機に30年ものあいだ埋もれ続けていたネガが発見されたことから注目を浴びるようになりました。彼の捉えた一瞬は、見る者の心に眠る<記憶>を現代へ呼び覚ませます。

昭和という時代の、市井の人々や子どもたちが生き生きと輝く姿、そして今では貴重な、戦後の沖縄を生きる人々の生活を写した作品の数々を、会場でご覧いただけます。



PART1 『音のない記憶』

会期 : 2017年3月9日(木)～3月12日(日)

入場料: 無料

会場 : アツコバルー arts drinks talk
(東京都渋谷区松濤1-29-1 クロスロードビル
5F)

URL : www.atsukobarouh.com

★3月10日、11日にそれぞれギャラリートークを開催。

※詳細は映画祭公式サイトをご参照ください。

PART2 『あの頃 ～1959年沖縄の空の下で～』

会期 : 2017年4月5日(水)～4月10日(月)

入場料: 無料

会場 : America-Bashi Gallery [アメリカ橋ギャラリー]
(東京都渋谷区恵比寿南 1-22-3)

URL : AmericaBashiGallery.com

★短編映画『私を見てください、私もあなたを見ます』

(監督: ブリジット・ルメーヌ) をループ上映。

■神津 裕幸 個展『境域 — 紫窓 [SHI・SOU] — 』

神津裕幸はろうの舞踏家、雫境 (DAKEI) のもうひとつの領域で表現活動をする美術作家です。学生時代から「境域」を主題にして作品製作を続けており、平面、オブジェ、インスタレーションなどさまざまな媒体を通して「間」を提示してきました。今回の展示は映画『LISTEN リッスン』にインスパイアされた自身初となるビデオインスタレーション。内外の区別はなく、壁、窓、カーテンに映像を対称的に投射する作品となっています。



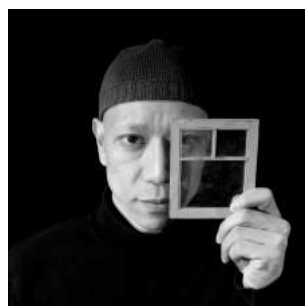
会期 : 2017年3月13日(月)～19日(日)

時間 : 11:30～19:30 (19日は17:00まで)

入場料: 無料

会場 : Art Lab AKIBA
(東京都台東区浅草橋4-5-2 片桐ビル1F)

URL : www.art-lab.jp



神津裕幸

美術作家。1970年福岡県生まれ。2000年東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程修了。他、舞踏家の雫境として映画『LISTEN リッスン』の共同監督を行う。

■WORK SHOP 【レベント・ベシュカルデシュと手話と身体】

『新・音のない世界で』の日本初上映を記念し、作中でも行われていたワークショップを東京で開催します。講師には、東京ろう映画祭の顔を飾るレベント・ベシュカルデシュ氏をフランスからお招きします。言葉や音声に頼らずに写真やイラストからコミュニケーションを図る、自己と他者との共創的な身体表現を体験していきます。レベント氏と一緒に手話とジェスチャーについて体験できるまたとない機会です。手話を知らない聴者でもご参加いただけます。



日時 : 2017年4月10日 (月)
第1回 : 13:30~16:30
第2回 : 18:30~21:30
参加費 : 3000円
定員 : 各回12名
会場 : トット文化館
(東京都品川区西品川2-2-16)
URL : www.totto.or.jp
※各回定員に達し次第締切。
※申込方法は映画祭公式サイトを
ご参照ください



レベント・ベシュカルデシュ

役者、プロデューサー、手話詩人、芸術家。1949年トルコ生まれ。1973年から現在までイスタンブールとパリで35の演劇出演、4つの演劇の執筆と監督を務める。パリで監督をした2作品は『HANNA』『CHILDREN OF A LESSER GOD』。複数の手話詩と絵の祭典に参加し、2016年には、ニューヨーク・パリ等にてアート展を開催。

■SYMPOSIUM 【映画の中のろう者／社会の中のろう者】

近年、映画に登場するろう者の役をろう者自身が演じるようになり、またろう者の監督の作品が一般の映画館で上映されるなど、映画界においてろう者が市民権を得るようになりつつあります。東京ろう映画祭では、こうした現状の中でろう者と映画の関係を考察する機会としてシンポジウムを実施します。監督、製作、俳優、またろう者と聴者、それぞれの立場から登壇者を迎えてディスカッションを行います。

日時 : 2017年4月7日 (金) 19:15~20:45

会場 : ユーロライブ/チケット : 前売り券800円 当日券1000円 ※詳細は映画祭公式サイトをご参照ください。

<登壇者プロフィール>



ブリジット・ルメーヌ

フランス生まれ。社会学者。美学博士号を取得。報道雑誌「レクスプレス」誌で編集などの仕事を経た後、88年からドキュメンタリー映像作家として活躍している。障害者や児童虐待などを扱うドキュメンタリー映画を数多く制作。特に「耳の聞こえない人の文化」「視覚的知性」を伝えることをテーマとしている。ろう者の祖父母に育てられたことから、自らの母語は「手話」だという。



忍足亜希子

北海道千歳市生まれの横浜育ち。1999年に公開された映画『アイ・ラブ・ユー』で日本最初のろう主演女優として、デビュー。第54回毎日映画コンクール(1999年)「スポニチグランプリ新人賞」、第16回山路ふみ子映画賞「山路ふみ子福祉賞」受賞。主な出演作品に『アイ・ラブ・ユー』『アイ・ラブ・ピース』『黄泉がえり』など。



牧原依里

1986年生まれ。聾の両親を持つ。小学2年まで聾学校に通い、小学3年から普通学校に通う。大正大学で臨床心理学を専攻。会社に勤めながら映画制作を行っている。2013年ニューシネマワークショップ受講。2014年Movie-High14『今、僕は死ぬことにした』(短編映画)上映。2016年『LISTEN リッスン』共同監督。

■RECEPTION

フランスからの招聘ゲストを歓迎するオープニングパーティーです。先着申込順でどなたでもご参加いただけます。お酒や食事を楽しみながら映画関係者や色々な方と交流を深めていただく場です。

日時 : 2017年4月7日(金) 受付21:00 開始21:15 (23:30終了予定)

参加費 : 3000円/定員 : 30名

会場 : B.Y.G[ビーワイジー] (東京都渋谷区道玄坂2-19-14)

※お申込みは映画祭公式サイトをご参照ください。

<東京ろう映画祭 開催概要>

東京ろう映画祭は、「視覚の知性」をテーマに、ろう者のディレクターがセレクションを務める映画祭です。ろう者をとりまく手話社会を映し出した映画作品を多くの方に観ていただき、またその文化を楽しみ、聴者、そしてろう者自身にもより深くその魅力を知ってもらうことで、ろう者の社会や芸術の発展につながる機会の場をつくることを目的としています。

■名称 : 東京ろう映画祭 (TOKYO DEAF FESTIVAL 2017)

■会期 : 2017年4月7日(金) ~9日(日)

■会場 : ユーロライブ (渋谷)

■主催 : 東京ろう映画祭実行委員会

■後援 : 在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本 / 東京都聴覚障害者連盟

■協賛 : 聾の鳥プロダクション/Shamrock Records 株式会社 (音声認識アプリ「UDトーク」開発会社/ 特定非営利活動法人メディア・アクセス・サポートセンター

■特別協力 : 井上孝治写真館/アツコパルーarts drinks talk/イタリア文化会館/Art Lab AKIBA社会福祉法人/トット基金

■協力 : ローマ国際ろう映画祭CINEDEAF (主催:ローマろう研究所) /ロングライド社 /オフィス北野/ファントム・フィルム/FotoFilmEcrit/Kaléo Films/BSL ZONE/Rai Com /KADOKAWA / 睦聾啞映画演劇研究会/アメリカ橋ギャラリー/アップリンク/ユーロライブ

■公式HP : <http://tdf.tokyo>

■公式Facebook : <https://www.facebook.com/tokyodeaffestival/>

■公式Twitter : <http://twitter.com/tokyodeaffes>

2017年2月11日 (土) 11:00 より e+(イープラス)にてチケット発売!

【このプレスリリースに関するお問い合わせ】

東京ろう映画祭実行委員会:東京ろう映画祭事務局 担当(大久保)TEL:080-1223-4117

〒225-0004 神奈川県横浜市青葉区元石川町6301-8ルネスエスポワール301

Fax 045-530-3078 E-mail:office@tdf.tokyo ホームページ <http://tdf.tokyo>